

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

49

2013 SUMMER

特集Ⅰ

熊本大学の 水環境研究

地下水から沿岸海域まで

特集Ⅱ

「水の国くまもと」のフィールドを生かし
減災のまちづくりを担う“人財”を育てる!



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CONTENTS

- 02 特集Ⅰ 熊本大学の水環境研究
地下水から沿岸海域まで
- 11 研究室探訪 歴史を学ぶことで国、文化、大学の境界を越え、
新しい世界へ飛び出す人となる！
文学部歴史学科 西洋史学研究室
- 13 特集Ⅱ 「水の国くまもと」のフィールドを生かし
減災のまちづくりを担う“人財”を育てる！
- 15 国際交流 インタビュー
熊本大学から世界へ 竹永智美さん
世界から熊本大学へ アンドリ・レザノさん
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙／熊本市内を流れる一級河川・白川の源でもあり、毎分60トンの豊富な湧水量を誇る「白川水源」(阿蘇郡南阿蘇村)

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp *皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【編集】 熊大通信編集委員会
田中 智之 / 委員長・大学院自然科学研究科
中川 順子 / 文学部
黨 武彦 / 教育学部
大脇 成昭 / 法学部
中田 晴彦 / 大学院自然科学研究科
永田 千鶴 / 大学院生命科学研究所
首藤 剛 / 大学院生命科学研究所
田中 尚人 / 政策創造研究教育センター
西川 洋子 / マーケティング推進部広報戦略ユニット

【制作】 株式会社カラースプランニング

熊大通信

vol.

49

2013 SUMMER

キャンパスの風景

学生会館食堂

黒髪北キャンパスの「学生会館食堂」では
リーズナブルながら栄養バランスに
気を配った食事を取ることができる。
全学教育棟に近いため新入生の姿も多く
新生活スタートの心強い味方だ。

熊本大学の 水環境研究

地下水から沿岸海域まで

熊本は、熊本都市圏約100万人の水道水を地下水でまかなう世界的に見ても稀有な地域だ。阿蘇の度重なる噴火で形成された地層により育まれた地下水は人々の暮らしを潤し、海まで流れ行く。その海には有明海・八代海の広大な干潟が広がり多種多様な生物が生息している。このような特異な水環境を持つ熊本にある大学として熊本大学では多くの研究者がそれぞれの視点から水環境に関わる研究を進めている――

雨水の起源を推測

海の再生を目指し、陸域からの栄養塩負荷を把握
P3~4 増田 龍哉特任助教

沿岸域の水環境保全などに役立つハマグリを守る
P5~6 逸見 泰久教授

地下水中の硝酸性窒素の行方を追う
P3~4 細野 高啓特任助教

地下水流動モデルで未来の水の流れを予測
P7~8 利部 慎特任助教

遺伝子導入メダカで水の汚染状況を監視
P5~6 北野 健准教授

なぎさ線回復技術の実証試験

漂着ゴミの質・量と移動傾向の把握

潜水艇で沿岸域の底質を探り、環境変動を解明
P7~8 秋元 和實准教授

人工化学物質測定による地下水汚染の把握

1日約40万トンの湧水が湧き出る熊本市民のオアシス「江津湖」。独特の生態系を形成しているが、最近では硝酸性窒素汚染が問題となっている



水深の浅い海域に生育する海草「アマモ」。魚などの産卵場所であると同時に、成長に当たり窒素やリン、CO₂を吸収・貯留することで、海の環境を健全に保つ役割を果たすといわれる

地下水中で消えた!? 硝酸性窒素の行方を追い、水の浄化システムを解明

地下水の水質汚染で大きな問題となっている硝酸性窒素。細野高啓先生は、硝酸性窒素がどこから来て、地下水中でどのように振る舞い、どのようなプロセスを経て変化・消失していく(脱窒※)のかを明らかにする研究を進めています。「硝酸性窒素汚染の原因と対策につながる



同位体の測定には電子てんびんを使用。同位体はアルミニウムカプセルに包んで試料皿に乗せる

脱窒の仕組みを理解することで、水質改善に寄与したい」と先生は語ります。

「特に、微生物が硝酸を分解することによる自然浄化に着目。微生物の活動で変化する地下水中の窒素・炭素・硫黄の安定同位体を測定・解析する『マルチ同位体測定システム』という、最新の手法・機器を用いて、脱窒システムの解明を目指しています。地下には脱窒が活発に行われている場所とそうでない場所があります。これまでの調査で熊本市北部の坪井川流域に活発な脱窒ポイントが存在することが明らかになりました。その理由はまだよくわかりませんが、脱窒のメカニズムを解明できれば、将来的には脱窒が進みやすい環境を整える技術開発にもつながっていくことでしょう」。

※脱窒：窒素化合物を分子状窒素として放散させる作用または工程。主に微生物によって行われ、硝酸性窒素は脱窒することで無害化する。



熊本大学大学院先導機構
環境動態解析分野 特任助教

細野 高啓

Takahiro Hosono

Profile / 信州大学理学部地質科学科卒業後、筑波大学地球科学研究科博士課程修了。早稲田大学、総合地球環境学研究所などの研究員を経て秋田大学工学資源学部地球資源学科助教となる。2009年より現職。国内外の調査フィールドを舞台に水研究を展開。

水環境を通じた命のつながり 海の自然再生を研究

「人間と自然が共生するにはどうしたらいいだろうか?。いつも自分にそう問い掛ける増田龍哉先生。有明・八代海沿岸をフィールドに、多種多様な動植物が息する自然を再生するための調査研究などを行っています。

「閉鎖性の高い海域は、陸域から河川などを通じて流入する栄養塩(※)の影響を受けやすい。健全な海域では、栄養塩は植物プランクトン、そして魚介類、さらに鳥類や人へと続く食物連鎖により海から取り出されます。このように水を通じた物質循環の下で、多くの命が繋がってきたのです」。

しかし、干拓などの影響により多くの種が絶滅し生態系のバランスが崩れ、過剰に蓄積した栄養塩などにより環境悪化を招いたと懸念されています。先生は海の環境を良くするために、干潟やアマモ場などを再生する調査や現地試験など



環境学習会で、再生した人工干潟に生息する生き物を探す子どもたち。増田先生は地域住民や子どもたちの教育にも力を入れている

を行い、動植物の生息場を再生させてきました。また、陸域から水と共に流れ込む栄養塩などの量を把握することにも取り組んでいます。理想とする「多様な生物が集う命にぎやかな海」に近づけるため、先生の研究は続きます。

※栄養塩：窒素、リンなどの総称で、河川を経由して過剰に海に流れ込むことで環境悪化を招く富栄養化物質



熊本大学大学院先導機構
総合領域分野 特任助教

増田 龍哉

Tatsuya Masuda

Profile / 熊本大学工学部環境システム工学科卒業、民間会社に勤務した後、熊本大学沿岸環境科学教育研究センター研究員に。2009年に熊本大学大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻博士課程を修了し、同年より現職。環境と防災の調和のとれた沿岸システム構築を目指す。

上は通常のメダカ。下が硝酸性窒素に反応して赤く光るトランスジェニック(遺伝子導入)メダカ。実体蛍光顕微鏡システムで撮影



熊本県はハマグリ(ハマグリ)の生産量日本一を誇るものの、近年生息数は非常に少ない状態にあり、県のレッドデータブックにおいて絶滅危惧II類に指定されている

赤や緑に光る遺伝子導入 「信号機メダカ」で、水の汚染を調べる

生き物の性別がどの

ようなメカニズムで決定さ

れるのか、日々メダカと向

き合つて研究を続ける北

野健先生。水温や環境ホ

ルモンなどの外的ストレス

によってメダカの遺伝的メ

スがオスに変わることを

発見し、その時に応答す

る遺伝子を特定しました。これに赤く光

る遺伝子を組み込むことで、ストレスを感

じると赤く光る「トランスジェニック(遺伝

子導入)メダカ系統」を作製し、これが地

下水質汚染の原因となる硝酸性窒素に

も反応することがわかりました。

「トランスジェニックメダカは、10 ppm

(※)以上の硝酸性窒素に反応して赤く

光ります。水道水質基準では、硝酸性窒

素の基準値を 10 ppm 以下と定めてい

ますから、水質評価の指標生物として



北野先生が使用している「実体蛍光顕微鏡システム」。
微小なものでも立体的に観察できる

有用です。人間にとって望ましくない環
境は、メダカにとつてもストレスなようです
ね」と語る北野先生。今のところ、硝酸
性窒素濃度だけでなく、pH(水素イオ
ン濃度)など他の要因にも反応してしま
うため、「ストレスの種類によるメダカのレ
スポンスの違いを把握し、特定要因のみに
反応するメダカの作製を進め、水環境保
全に貢献したい」と意気込みます。

※ ppm: 100万分のいくらかを表す単位で、主に物質の
濃度をいうときに用いられる。10 ppmは10万分の1



熊本大学大学院
自然科学研究科 准教授

北野 健

Takeshi Kitano

Profile / 九州大学農学部水産学科卒
業後、熊本大学大学院自然科学研究
科博士課程修了。2000年より同大
学大学院自然科学研究科の助手となる。
2006年より現職。環境要因による生
物の性決定メカニズムを解明するべ
く、日夜研究に励む。

環境指標、水質浄化、有機物の循環など 多様な役割を持つ干潟のハマグリを研究

陸域でのヒトや産業活動の影響を受

けやすい干潟。逸見泰久先生は、有明海

沿岸の干潟に生息するアサリやハマグリ

の研究をすることで、沿岸域の水環境の

保全を目指します。ハマグリなどの底生

動物は、赤潮等の影響で海の富栄養化

が進むと死んでしまうことから、水環境
の重要な指標生物として活用されてい
ます。また、ハマグリを含む干潟の生き物
は、海に流れ込んだ有機物を体に取り込
むので、水質浄化にも一役買っています。
「さらに、人がハマグリを採って食べるこ
とで、栄養塩を海から陸に循環させる効果
もあるんです」。

しかし、近年の環境悪化や乱獲などが
原因で、ハマグリの漁獲量は減少していま
す。先生は、行政や漁業者等に対して、ハ
マグリの持続的保全に関する客観的な
データを示し、粘り強く対策を講じるよ
う促しています。「夏場のハマグリ採捕の
禁止や、採捕サイズの引き上げに関する
資源管理条例の策定を目指す取り組み
などを通じて、ハマグリの生息数をその地
域にとってよりよいバランスに近づけ、有明
海の水環境を守ることにもつなげたい」と
語ります。



ハマグリが多く生息する白川河口。緑川や白川に生息する個体は殻の模様的美しさで知
られ、商品としての価値も高い



熊本大学沿岸域環境科学
教育研究センター
合津マリンスターション 教授

逸見 泰久

Yasuhisa Henmi

Profile / 九州大学理学部生物学科卒
業。同大学大学院理学研究科博士課
程修了。高校教諭生活を経て熊本大
学理学部附属臨海実験所の講師とな
る。臨海実験所をベースとした熊本大
学沿岸域環境科学教育研究センター
の発足に伴い同センター講師に。
2003年より教授。

熊本市の各家庭に水を供給する
健軍水源地の5号井は、1日約
15,000立方メートルの地下水が
自噴。市内の地下水は20~30年
前に地下に浸透したものが多く
いわれる



2010年に熊本大学に配備された
自律型環境モニタリングロボット
(AUV: autonomous underwater
vehicle)は、世界最高水準のセン
サー数と精度を有す

地下水の生成年代の推定と流動モデルで 未来の水環境をシミュレーション

利部慎先生は、地下水中のCFCs（クロロフルオロカーボン類）等の濃度を測ることで地下水の年齢を推定し、「地下水流動モデル（以下、モデル）」の予測精度を上げる取り組みを行っています。このモデルは、これまでの地下水変動の履歴や川の流量などのデータに基づき構築されたシミュレーションモデルです。これを活用することで、未来の熊本の地下水の状況などをシミュレーションし、持続的な地下水



地下水を観測するため、GelKのプログラム学生たちと熊本城の井戸を訪れた利部先生。国籍や年齢、職業もさまざまな生徒たちのリーダーとしても活躍中

資源の管理や災害予測などに役立てることを目指しています。「モデルに水の年齢という新たな指標を組み込むことで、予測の精度を上げたい。また、温暖化や都市化の影響下で、将来的に地下水がどう変化するのかなどの情報を提供したい。」

また、「GelK（※）」の特任助教として、国内外の地下水保全の専門家と育てる教育に携わる利部先生。大学院博士課程の留学生らを対象に地下水や湧水の採取・分析法を教えるなど、水環境保全にかかわるさまざまな教育活動を行っています。先生は「熊本大学で学んだ技術を、母国の水環境保全に役立てて欲しい」と、各国から訪れたプログラム学生たちにエールを送ります。

※GelK：地下水環境リーダー育成国際共同教育拠点。日本一の地下水都市として知られる熊本で水環境に関する教育・研究を行うプロジェクトを最大限に生かしたカリキュラムを構築し、人材育成を進めている。



熊本大学大学院
自然科学研究科
GelK 特任助教
利部 慎
Makoto Kagabu

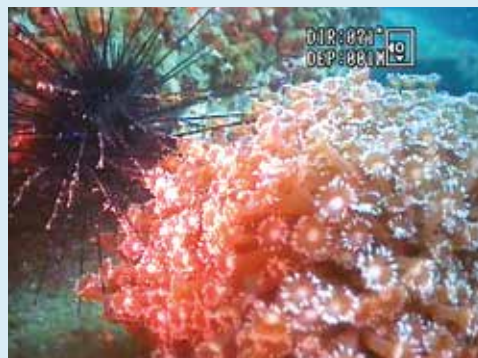
Profile / 秋田大学教育文化学部地域科学課程卒業、同大学大学院教育学研究科社会科教育学専修修了。地下水の研究体制が充実していることに引かれ熊本大学へ、大学院自然科学研究科博士課程修了後、プロジェクト研究員を経て、2012年より現職。

海底に降り積もった堆積物を採取し 過去の環境変動を解析

有明海や八代海の海底のデータを採取することで、過去から現在までの環境変化の時期・場所・原因を特定する研究を行う秋元和實先生。海底に降り積もった柱状堆積物試料（※）を採取して約1センチごとに切り分け、それぞれの層に残された微小生物（主に底生有孔虫）の構成や粒子のサイズ等から、陸域からの物質負荷とその影響を解析。過去の環境を詳細に復元します。また、自律型環境モニタリングロボット（通称：AUV）を用いた水質連続調査や、音響や映像による海底地形や底質の精密調査を行い、調査結果の精度を高めています。

八代海はまだまだ元に戻る可能性が高い。得られたデータが、この海の再生に役立てられることを望みます。」

「汚染の原因や物質をきちんと特定してはじめて、対策を立てることができません。近世以降の環境変化を把握し、環境に与えた人為的影響を解析することで、それぞれの海域の特性に応じた環境改善につなげたい」と語る先生。「有明海、



八代海に浮かぶ恋路島(水俣市)の北岸部の海底で撮影されたサンゴとウニの一種・ガンガセ。八代海には多様な生物が生息している

※柱状堆積物試料：沿岸海域などには、時間の経過とともに、陸からの物質、海中や海底に生息していた生物の遺骸が堆積し、地層として残されている。それを垂直にくり抜いて得られる過去から現在までの堆積物の試料



熊本大学沿岸域環境科学
教育研究センター 准教授
秋元 和實
Kazumi Akimoto

Profile / 新潟大学理学部地質鉱物学科卒業、同大学大学院理学研究科地質鉱物学専攻修了、東北大学大学院理学研究科地質学専攻博士後期課程修了。名古屋自由学院短期大学専任講師・助教を経て、熊本大学理学部講師に、熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターに配属となり、2006年准教授、現在に至る。

持続的な地下水管理 モデルの提言こそ 地元大学研究者の役割 なのです

熊本大学大学院自然科学研究科 教授
複合新領域科学専攻水循環共生コース
JST戦略的創造研究推進事業
(CREST) 研究代表

嶋田 純

Jun Shimada

Profile / 東京教育大学理学部地学科
卒業、筑波大学大学院博士課程地球科
学研究科地理学・水文学専攻修了、理
学博士。筑波大学講師・助教授を経て
1999年より熊本大学教授。2011年よ
り日本地下水学会会長、2012年より国
際水文地質学会副会長アジア地区担
当。専門は同位体水文学、地下水学。



「水の国くまもと」の大学として

熊本市は、我が国の県庁所在地規模の都市としては珍しい飲用水のほぼ100%を地下水に依存する都市です。行政や市民等と連携して地下水流動の実態把握とそれに基づく持続可能な利活



熊本を訪れたJICA(国際協力機構)の研修生を江津湖の自噴井戸に案内。地下水環境研究の取り組みを世界へ発信することも熊本大学の大きな使命だ

用の在り方を探ることは、学術的な意義のみならず、その成果を地域に還元するといふ使命と責任を担っています。地下水に関するさまざまな問題を見つけて検証し具体的対策を提言するとともに、それらを世界に発信することは、地元の大学の研究者として果たすべき役割と考えています。

さまざまな視点から地下水に挑む

地下水の恩恵を長年受けてきた熊本には、地下水資源を管理していくという観点から100本以上の観測井戸があります。このような「研究資源」を行政の協力で活用できるのは、研究者として大変ありがたいことです。国の戦略的創造研究推進事業(CREST(※))の枠組みの中で現在本学が取り組んでいる研究プロジェクトでは、

有明・八代海の再生は喫緊の課題

有明・八代海のように閉鎖性が高い海域における環境は、陸域からもたらされる種々の物質の影響を受けやすく、近年、富栄養化や化学物質の汚染による環境悪化が顕著となっています。日本の干潟総面積のほぼ半分を占める有明・八代海を有する地域にある大学として、熊本大学はかねてから海域環境再生を目的とした数々のプロジェクトに取り組んでおり、平成23年度には文部科学省の特別研究「生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト」を発足させ、5カ年計画で進めているところです。

調和をキーワードに ストーリーを描く

生き物にも一般の生活者にも、漁業者に



防災と環境に配慮した海岸堤防(玉名市横島町)。消失した生物生息場が回復するとともに景観・親水機能も向上



熊本港一帯で行われた「干潟フェスタ」で生物観察をする参加者たち。人工干潟も造成され、一時姿を消していた生き物も再び見られるようになった

も住みよい、バランスがとれた海が「豊かな海」といえるでしょう。そのためには、「自然・生態環境」「安全・防災」「開発・利用」の3領域が調和し、全体として持続性のある豊かな地域を構築していくこととする俯瞰的視点が不可欠です。個々の調査・研究が己のみに埋没するのではなく、携わる全員が「再生」というストーリーを共有し、同じゴールを目指さなければなりません。

普遍性を持った解決法を目指して

人間活動の影響を受けやすい有明・八代海は、閉鎖性海域特有のさまざまな問題を抱えています。そうした課題を解決するには、地域特性を調査・理解し、それにふさわしい解決法を探らなければなりません。そこで得られた特別解は、国内外の日本や

特集コーディネーターより

熊本の豊かな水環境文化を次の世代へ

熊本大学大学院自然科学研究科 准教授

中田 晴彦 Haruhiko Nakata

今年梅雨入り後の雨が少なく、全国的に渇水が心配されているが、熊本で水不足という言葉が聞かれることはあまりない。豊富な地下水のおかげである。また、熊本は魚介類がおいしい。貝や魚の生息に適した広大な干潟や、波静かな有明海・八代海の賜物であることは言うまでもない。しかし、近年熊本の水環境を取り巻く課題は、

その一部において無視できないほど肥大化しつつある。熊本の豊かな水環境文化を次世代に引き継ぐには何が必要か。本号では、地下水と沿岸域の水環境について不明な点を明らかにし、問題があればその解決法を探るための調査研究に取り組み、熊本大学の6名の研究者と、2名のプロジェクトリーダーを紹介する。

した。具体的には、自然科学研究科（理学部と工学部の合同大学院）等に所属する研究者が、それぞれの視点から取り組んだ最新の成果概要を紹介するが、本プロジェクトにはこの他に学内を中心に20名以上の研究者が参加している。一同、50年後、100年後の熊本の人々の評価に耐えうる研究を展開したいと強く願っている。

愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了。1998年熊本大学理学部環境理学科助手。2002～2004年、文科省在外研究員等でアメリカのミシガン州立大学とニューヨーク州立大学に研究留学。2007年より熊本大学大学院自然科学研究科准教授。専門は環境毒性化学で、人工化学物質による汚染状況と分布挙動の解析およびリスク評価を行っている。



将来にわたる水資源の安定供給のために持続可能な地下水の利用システム構築に向けて、教員・若手研究者たちがそれぞれの視点で研究テーマに取り組んでいます。

**熊本から世界へ、
地下水管理モデルを発信**

21世紀は水の世紀と言われます。これからの時代、いかにして水資源を保全し活用していくかが、人類共通の大きなテーマです。地下水に關しても、住民・行政・大学が協働し、地下水の量や質を保つ仕組みを早急に構築しなければなりません。熊本が目指す望ましい姿は、持続的な地下水管理のモデルを、日本だけでなく世界にいち早く示すことではないでしょうか。熊本に根差す本学は、地域の資源をうまく生かしつつ、研究の舵を取り、世界



八代海の干潟において200年の時間を経て湧き出る地下水の存在をラドン濃度で観測。さらに300m沖合の海底下にある2000年前に封入された地下水の存在も突き止めている

に貢献できる研究成果の創生や人材育成が求められていると思っています。

※OPOの「科学技術振興機構が運営している戦略的創造研究推進事業の略称。持続的な水利用を実現する革新的な技術とシステム」のテーマの一つとして熊本大学では、地下水管理の先進地域である熊本地域を研究フィールドとして、帯水層構造とその循環機構に基づく流域地下水の水質に関する持続的な管理手法の提案および、硝酸性窒素汚染による水質負荷の軽減や原位置浄化技術・生物モニタリング手法など水質に関する持続的地下水利用システムの構築を研究している。

調和のとれた沿岸域環境を創生することが普遍的な問題解決につながるでしょう

熊本大学大学院自然科学研究科 教授 複合新領域科学専攻
JST重要課題解決型研究「有明海再生研究プロジェクト」代表
文部科学省特別研究「八代海再生研究プロジェクト」代表
NPO法人：みらい有明・不知火 理事長

滝川 清

Kiyoshi Takikawa

Profile / 熊本大学工学部土木工学科卒業。熊本大学大学院修士課程土木工学専攻修了。1991年熊本大学工学部教授。2001年より熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授。土木学会フェロー、土木学会特別上級技術者。海岸環境工学が専門で、環境と防災の調和の取れた沿岸域構築のために、環境省、国土交通省、農林水産省、水産庁等の国や県等の数々の委員会の委員や委員長を務めながら、さまざまな提言を行なっている。



世界の閉鎖性海域で同じように抱えている問題解決に資する一般解へとつながってきます。現在、熊本大学で行われている調査、研究の手法やツール、課題解決へと向かう姿勢が普遍性を持つこと、それは

「Think Globally, and Act Locally, Contribute Globally」につながります。このような考えのもと、「有明・八代海再生のシナリオ」を、委員長を務める国の諮問委員会等で作成を進めています。

各研究に関する参考サイト: CREST「地域水循環を踏まえた地下水持続利用システムの構築」 http://accafe.jp/kumamoto_crest/index.php

熊本大学地下水環境リーダー育成プログラム(通称GeIK) <http://www.geik.info/>

生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト http://accafe.jp/kumamoto_u_yatsushiro/

研究室探訪

Laboratory Exploration

西洋史学研究室

文学部

歴史学科

先 人が残したさまざまな史料を基に、過去の事象の原因・経過・意義等を実証的に解き明かす歴史学。西洋史学研究室では、丹下教授、三瓶准教授、中川准教授、それぞれの専門分野である「フランス・ベルギー中世史」、「アメリカ史」、「イギリス近世史」を軸に研究に取り組んでいます。

「今を生きる私たちの目には過去の人々の行動が奇異に映ることもあります。彼らが置かれた時代や立場から考えれば、きちんと筋道が通っているのです。歴史学では、物事を多様な視点でとらえることの大切さも学べます」と丹下教授。例えば、アメリカ史専門の三瓶准教授は、資本主義国家アメリカにおいてさえ社会的弱者に目を向け、社会の安定を図ろうとする経済思想が脈々と息づいてきたことに気づき、「パブリック・エコノミー」と名付けて研究しています。

三瓶准教授は「研究室のテーマは『境界線を越えよう!』です」と熱く語ります。まずは国境を越えようと、10年以上前から海外研修旅行を実施。また、「熊本大学という境界」も越えようと、今年3月には福岡で開催された「九州西洋史学会若手部会 若手研究報告会・読書会」に“他流試合”として臨みました。九州各地から集まった他大学の院生・学部生と活発な議論を戦わせた経験は、学生たちに大いに刺激を与えたようです。

3人の先生が共同研究体制をとる西洋史学研究室では、学生も同じ研究者として、対等に扱われます。三瓶准教授は、「今の若者は外に出て行くことを恐れるといわれますが、実は大きなエネルギーを秘めている。ちょっと背中を押してあげれば飛び出せるはず。西洋史学研究室で多様な価値観があることを学んで、広い世界へ羽ばたくきっかけにして欲しい」と、学生の成長を温かく見守ります。



海外研修でイタリアへ。研修旅行では研究室で学んだことを現地でも体感すると共に、人々との触れ合いを大切にしている。

密着! 西洋史学研究室

さまざまな“境界線”を越えることを目標に掲げる西洋史学研究室。積極的に取り組む学生たちの姿を追いました。

lab's data

[西洋史学研究室データ]

□ 研究テーマ

「フランス・ベルギー中世史」、「アメリカ史」、「イギリス近世史」

丹下教授は修道院に関する史料を用いて中世ヨーロッパの社会経済について研究。フランク時代の、特に所領管理・経営実態について造詣が深い。主著は『中世初期の所領経済と市場』(2002年創文社)。写真はサン・タマン修道院所領明細帳(9世紀・仏)。



□ メンバー

丹下栄教授、三瓶弘喜准教授、中川順子准教授、大学院生3人、学部4年生8人、3年生11人、2年生10人

□ OB・OGの進路

直方市役所、熊本市役所、天草市立天草アーカイブズ、大分県警察、熊本大学、福岡大学、熊本県立各高等学校、ルーテル学院高等学校、大分銀行、みずほ証券、西島製作所、日本旅行、西日本電信電話 ほか

Interview:

活発に議論を交わす雰囲気の中で積極的に研究に取り組みたい!

文学部歴史学科世界システム史学コース
西洋史学3年 黒田 太郎さん

熊本大学文学部歴史学科では2年生のときに学生は各コース・研究室に所属し、それぞれの分野に関する基本的な知識を学びます。3年次には卒業論文を見据えて研究テーマを見付けます。私はヨーロッパ中世の祭りについて研究したいと考え、今は史料収集中です。

演習では外国語で書かれた論文を読み合うなどし、先生・学生関係なく活発に議論を交わします。西洋史学研究室は先生と学生の距離が近く和気あいあいとした雰囲気があり、それが演習にも現れているのでしょう。

この研究室では自ら積極的に行動することが求められます。積極的に学ぶ姿勢を身に付けて、それを人生においても生かしたいと思います。



教える・教えられる関係というより、共に学び合う仲間という雰囲気に満ちた西洋史学研究室



歴史を学ぶことで国、文化、大学の境界を越え、
新しい世界へ飛び出す人となる！



「西洋史研究室年報」は、修士・卒業論文や3年生の課題研究の内容要約と共にその年の研究室の出来事も掲載した一年の集大成。

May
15



丹下教授の演習。次々と飛んで来る教授の鋭い質問に答えるうち、いつしか学生からも課題を提言できるようになる。

Mar.
31



若手研究報告会・読書会には2年生が参加。他大学の上級生に囲まれても対等に議論できたことが貴重な経験になった。

のフィールドを生かし 担う“人財”を育てる!

水は命を育み、私たちの生活を潤す反面
ひとたび牙をむけば全てを奪い去ってしまう。
特集Ⅰで紹介したように地下水に恵まれ
干満の差が激しい内海である干潟を持つ「水の国くまもと」は
実は風水害に見舞われやすい地域でもある。
昨年度の九州北部豪雨災害の記憶も新しい今年は
6・26水害から60年という節目の年にも当たり
特集Ⅱでは、「減災型社会システム実践研究教育センター」の取り組みや
自ら積極的に防災・減災に関わる学生たちの姿を通して
災害に強い地域の構築を目指す熊本大学の取り組みを紹介する。



①②③2012年7月12日に熊本を襲った九州北部豪雨災害で氾濫する白川 ④浸水状況を調査
⑤豪雨により無数に山肌が削られた仙酔峠(阿蘇) ⑥⑦⑧地域の人々と一緒に地域版ハザードマップ作成に取り組む学生たち

インタビュー 「水の国」で暮らすために

熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター長／大学院自然科学研究科教授 山田 文彦

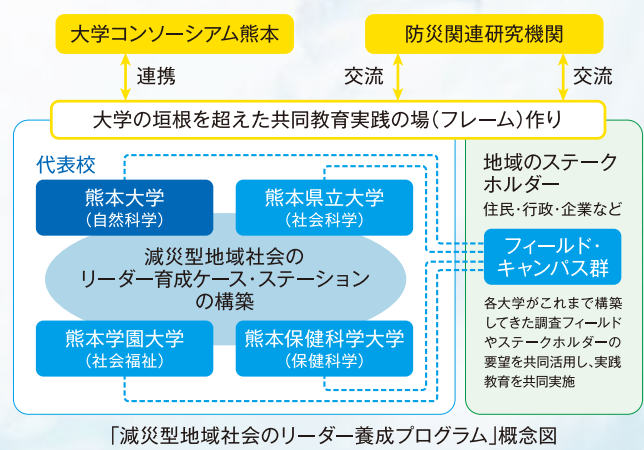
災害に強い地域を構築
その鍵は「人財」の育成にある

よく「自助・共助・公助」といわれますが、「公助」によるハード整備だけでは大規模災害に対応できません。地域住民が主体となり、日頃から災害に備え、自分の命・地域住民の命は自分たちで守ろう（自助・共助）という意識を高めることが、災害に強い地域、「減災型社会」を構築することといえます。

減災型社会を構築するには、地域の核となる「人づくり」が何より大切です。昨年度、熊本大学では「減災型社会システム実践研究教育センター」を設立し、減災型社会を持続的に実現するため幅広い防災・減災に関する研究を推進するとともに、「人財」の育成に力を入れています。

地域の各大学、さまざまな機関が
連携・協力し、互いに学び

センターの取り組みの「環」として、「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」もスタートしました。これは四つの大学が連携し、能動的学修能力と実践力を兼ね備えた人財



の育成を目指すもので、各大学が専門分野（自然科学・社会科学・社会福祉・保健科学）を持ち寄り、互いの教育資源を生かし合う画期的な取り組みです。具体的には、共同学修プログラムの構築や、単位互換・地域運営協議会・eポートフォリオを活用した教育の質保証などに取り組んでいます。

また、県内の高等教育機関14校と熊本県・市が参加する「大学コンソーシアム熊本」と連

学生の声



「減災型社会システム実践研究教育センター」の取り組みの一環として開講されている学際科目「減災型地域社会づくり」には、100名近い学生が参加。専門分野の異なる複数の講師陣から、減災型社会構築のための知識を学んでいる

「自ら学ぶ！」

学部の枠を超えて、
減災型社会について学びたい！

高校時代、部活で東日本大震災をテーマにした創作ダンスを作り、その時情報収集したことがきっかけで災害について興味を持ちました。防災・減災の知識を身に付けようと、「減災型地域社会づくり」の講義を受講しました。教員を目指しているので、災害時に子どもたちの命を守るため私にできることは何なのか、これからも積極的に学んでいきたいと思っています。



教育学部
小学校教員養成課程1年
まっ ぽう
末法 佳奈さん

「自ら動く！」

地域に飛び出すと、
いろんなことが見えてくる！

土木系の学生で結成する災害復旧支援団体「熊助組(くますけぐみ)」の代表を務めており、地域の防災訓練などにも積極的に参加しています。そこでは学生と住民の方、あるいは我々土木系学生と他学部の学生との視点の違いに気付くことがあります。避難所で手もみマッサージなど心身のケアが求められることなど、一口に「災害復旧支援」と言っても多方面からのアプローチが必要なることを理解できました。



熊本大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程2年
ひろ き
秋永 裕貴さん



熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組」は、行政が実施する防災訓練に参加したり、ボランティアとして被災地支援に行ったりなどで活躍中！

[特集Ⅱ]

「水の国くまもと」

減災のまちづくりを



携を図り、地域のステークホルダー(利害関係者)とも共同することで、地域そのものを大きなキャンパスとみなし、職種や立場、世代等を超えて学び合う教育体制をとっています。ここで学んだ者を、日頃からまちづくり等の地域活動に関心を持ち、災害時には適切で主導的な対応ができる減災型地域社会のリーダーへと育てること、またそのような人材が長期的・継続的に地域の中で維持され

TOPICS

～6・26水害から60年、九州北部豪雨から1年～
「防災・減災シンポジウム in 熊本」開催

去る5月28日(火)、「くまもと森都心プラザ」を会場に、将来起こり得る河川水害に備え、地域防災力強化のため、今何をすべきかを探るためのシンポジウムが開催されました。

五百旗頭(いおきべ)真熊本県立大学理事長の「大災害の教訓と備え」と題した講演に続き、山田文彦教授と国土交通省・県・市の担当者によるパネルディスカッションが行われました。その中で山田教授は、「災害に強いまちになるには地域の核となるリーダーが必要。学部・大学を超え、地域の機関とも連携して人財を育てなければならない」と述べました。



Profile / 熊本大学工学部土木工学科卒業、同大学大学院工学研究科修士課程修了、(株)熊谷組入社。1994年に退社し、熊本大学工学部助手に、助教、准教授を経て2008年より教授。この間、デラウェア大学(アメリカ)応用海岸研究センター在外研究員、ケベック大学(カナダ)客員教授などを歴任。専門は応用水工学。

る社会を構築することが、今、求められていると思います。



●アメリカ

国際学会で研究成果を発表 医療に貢献するCADシステムを開発したい!

大学院保健学教育部 医用放射線科学分野保健学専攻 博士後期課程1年
竹永智美さん

2012年、イタリアとアメリカで行われた国際学会で「コンピュータ画像の支援診断(CAD)」に関する論文発表を行った竹永智美さん。さまざまな国の研究者との交流を通じ、CADの果たす役割の大きさを実感し、研究への思いを新たにすると語ります。

CADとは、動脈瘤や転移性の腫瘍などを、コンピュータ画像を使って自動検出するシステムです。疑わしい病変や動脈瘤をコンピュータが自動検索してマーキングするので、医師はこれを参照することで、読影精度や速度を上げることができるといふ画期的なものです。

昨年7月にはイタリアで行われた「国際コンピュータ支援放射線医学・外科学会議(CARS)」に、また、11月にはアメリカシカゴで行われた「北米放射線学会(RSNA)」に参加しました。

特にRSNAは年1回開催される世界最大の放射線学会で、毎年約6万人が参加。演題の採択率は45%、うち学生は1割



研究発表を行ったイタリア・ピサの学会会場



学会発表のために訪れたシカゴで、同行の白石順二教授と一緒に

未満という狭き門でしたが、自分の研究のレベルを確かめたいと応募しました。結果、プレゼンテーションの機会を得られたことは本当に光栄でした。

大学が主催する「国際奨学事業」の奨学金を受けて渡米し、「脳動脈瘤の破裂予測のための支援診断」というテーマで発表しました。精いっぱい準備して臨みましたが、「こう言えはより伝わったかな」など、発表後はさまざまな課題が残りました。しかし、熱い志を持つ各国の研究者や学生たちと交流できたことは、今の研究のモチベーションにつながっていますし、今もメールで互いの研究の進展状況などを連絡し合っています。今後は、現在取り組んでいるプログラムをさらにブラッシュアップし、医療現場で役に立つレベルまで進化させ、博士課程修了後はアメリカの研究所で研究したいと思っています。

International exchange Report

国際交流レポート
平成25年3月~5月

3/8 第2回熊本大学eポートフォリオ国際セミナーを開催(9日まで)

eラーニング推進機構の主催で、国内における学習と教育の改善およびさまざまな分野でのeポートフォリオ利用促進を目的として開催されました。国内外からの招聘者、一般参加者による講演、情報交換等が行われ、のべ80名が参加しました。



4/5 日本語研修コース・短期留学コース開講式

22 国立六大学国際連携機構 ASEAN 大学連とパートナーシップ協定を締結
国立六大学国際連携機構(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本大学)は、タイのマヒドン大学にて、ASEAN大学連合(AUN)とのパートナーシップ協定調印式を行いました。調印式後、AUNに加盟する13大学との副学長会議が開催され、本学からは伊原副学長が出席しました。

22 先進マクネシウム国際研究センターシンポジウム「次世代の航空宇宙産業と新材料」を開催
日本の航空宇宙産業の政策やその実現を担っている専門家の方々ならびにボーイング社(アメリカ)のテクニカルフェロー等による講演や討論会が行われました。約200名が参加しました。



5/8 熊本大学・国連大学高等教育研究所「eポートフォリオ」を推進(10日まで)

大学院社会文化科学研究科の教員と学生が、国連大学高等教育研究所(横浜)で

世界から熊本大学へ

冬に耐えて咲くサクラを愛でる風習に 四季の移ろいを慈しむ日本人の心を見た!

大学院医学教育部 博士課程医学専攻4年
アンドリ・レザノさん

2010年4月から熊大に留学し、免疫学について学ぶ
インドネシア出身のアンドリ・レザノさん。

母国ではパジャジャラン大学の講師を務め、医師でもあるレザノさんは
がん化のメカニズムを研究し、母国の学生たちに伝えたいと語ります。



母国に在る時、以前熊大医学部を訪問したことがある担当教官から、熊大が免疫学研究において先進的な環境であることを聞きました。そこで、国費による留学制度を利用し、2010年に熊大にきました。私は、免疫学の抗原抗体反応で、抗体の親和性を高める働きを持つ分子「GANP」(*)について主に研究しています。「GANP」は、DNAが損傷した際、修復作業に関わる働きを持つといわれており、そのメカニズムを解き明かすことで、将来、がんの予防や治療に活用したいと思っています。

研究室では英語で過ごしますが、一歩外に出ると日本語がなかなか理解できず、苦労



研究室の桑原一彦先生やバングラデシュ、タイからの留学生と共に、花見を楽しむレザノさん(右端)

しますね。私はイスラム教徒なので豚肉を食べません。ですから、最初に覚えた日本語は「豚肉は、入っていますか?」。スーパーでは、この言葉がとても役に立つんです。

日本で一番驚いたことは、花見の習慣です。ほんの数週間前まで茶色だった枝に、みるみる薄紅色の花をつけるサクラの姿に感動しました。そして、たった1週間ほどしか咲かない花を1年間待ち続け、咲いたとたんお祭りのように楽しむ風習に、日本人の忍耐力と四季を慈しむ心を感じます。

来年3月には、インドネシアに戻ります。熊大で学んだ分子メカニズムの解析方法や研究環境を母国で構築し、医学の発展に貢献したいですね。



細胞培養には神経を使うと言うレザノさん。細胞は生き物。温度管理や増え方、汚染されていないかななどを常にチェック

※GANP・・・がん抑制分子。熊本大学で発見された

28

平成25年度TOEFL講座(全14回)開講



23

テキサス大学サンアントニオ校(UTSA) (アメリカ)来学
UTSA副学長以下学生を含む17名の訪問団が谷口学長を表敬訪問しました。UTSA学生と本学学生による懇親会も行われ、大変有意義な訪問となりました。

19

熊本留学生交流推進会議主催ウェルカムパーティー
200名を超える留学生および日本人学生が参加し、熊本県内の大学サークルによる出し物やゲームを通して親交を深めました。

16

2013年度シリース留学説明会(留学のススメ)(全4回)開始

「持続可能な未来に向けた社会変革のための対話技法」のワークショップを行いました。日本、タイ、韓国、オーストラリア、オマーン、メキシコからの研究者や大学院生と、東日本大震災で被災した東北の対話リーダーなどが一堂に会して語り合い、新しいつながりの感覚と希望が生まれた3日間でした。各人が対話への実践を続け、1年後などに再び経験を持ち寄ります。

10

日中国際政策フォーラムを開催(6日)
政策創造研究教育センターの主催で、同濟大学、復旦大学、上海交通大学、上海大学等から先生方をお招きし、「ミニマニイ政策を中心に日本と中国の考え方を比較するフィロドワーク」や研究会が開催されました。(詳細は19ページを参照ください)



教

生徒の笑顔に支えられて 夢だった教師の道をこれからも



田代 沙希

Saki TASHIRO

合志市立合志中学校
勤務

教育学部小学校教員養成課程・平成22年度卒

昭和62年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立済々黌高校卒業後、熊本大学教育学部へと進学し、現在は合志市立合志中学校に勤務。特技は、小学校から大学まで続けたバドミントン。

熊大のココがイイ!

交換留学生などさまざまな“人”との交流を通して、自分を成長させることができる。

恩師のような教師を目指してがむしゃらに過ごした高校時代

中学生のときに尊敬していた先生のような教師になりたい一心で、高校生活はがむしゃらに夢に向かって勉強や部活に打ち込んでいました。その中で友だちと笑ったり、ぶつかって悩んだり、今振り返ってみると青春の日々を送っていたなと思います。

人の温かさに触れて成長
留学生との出会いで国語と向き合う

人見知りやがむしゃらなことを伝えるのが苦手でした。大学入学当初は自分から壁を作ったりしてなかなか周りと打ち解けられませんでした。周りの人の温かさに触れ、少しずつ自分を出せるようになりました。それからは充実した大学生活を送ることができました。交換留学生の勉強を見ることで、専門の国語に対してより深く学び、考える機会を得ることができました。

中学からの教師の夢を実現!
関わり合いの中で成長を続ける

現在は中学校3年の担任をしています。3年目の今でもうまくいかずに、悩むこともありますが、夢だった職業に就けている喜びと、周りの先生方や生徒の笑顔に支えられて毎日頑張っています。これからもたくさんの人々と関わり合いながら、生徒に誠心誠意向き合い、自分を磨いていきたいと思っています。

文

熊大で得た視点や感覚を生かし 熊本の企業を支援する担い手に



那須 雄介

Yusuke NASU

公益財団法人くまもと産業
支援財団 勤務

文学部歴史学科・平成16年度卒/
大学院文学研究科修士課程歴史学
専攻・平成18年度修了

昭和57年生まれ、鹿児島県川内市(現・薩摩川内市)出身。平成13年、鹿児島県立鹿児島中央高校卒業。熊大在学中はモダンジャズ研究会に所属し、今でも顧問の先生や学生たちとバンド活動を続けている。

熊大のココがイイ!

自然に囲まれた環境。
学生向け各種支援制度。
そして素晴らしい先生方。

オープンキャンパスで見つけた
学びたい全てを学べる場所

小学生から興味があった歴史学が、傾倒していたアメリカ黒人音楽を生んだアメリカ文化か…。進路の決め手はオープンキャンパス。西洋中世史もアメリカ文化史も勉強できるのが決め手でしたね。「歴史学は自分次第でどんなことでも学べる」という先輩の言葉に感動したのを覚えています。

大好きな歴史に没頭
人と環境に恵まれ充実した6年間

大学では、アメリカ史を専攻し、勉強とサークルとアルバイトの日々。修士では研究の日々でした。四六時中歴史に打ち込めた時間は今思えばいたくな時間でしたね。また、毎年のように海外に行き、いろんな国の人と交流できたこともいい思い出です。温かい先生方や友人に恵まれて、本当に充実した6年間でした。

好きを追求した日々の学びを支えに
熊本の企業力になりたい

修了後は、企業支援に携わりたく、今の職場に入りました。熊本の中小企業支援を使命とし、企業のさまざまな課題に対応する大変な仕事ですが、支援の結果が形になると大きな達成感も得られます。広い視野や論理的思考、異文化を理解する力、国際感覚など歴史学科で学んだことが今の仕事でも生きています。

工

モットーは“挑戦を諦めない” 水力発電で社会の期待に応える



竜口 玄太

Genta TATSUGUCHI

九州電力株式会社(福岡)
勤務

工学部電気システム工学科・平成12
年度卒/大学院自然科学研究科電
気システム専攻博士前期課程・平成
14年度修了

昭和53年生まれ、熊本県八代市出身。鹿児島工業高等専門学校から熊本大学を経て同大学院へ。電気分野に興味があり、電力の道に進む。趣味は旅行。

熊大のココがイイ!

なにより自然が豊か!
研究者にとって
緑あふれる熊大は
魅力的な場所でした。

ものづくりに憧れて
目指した技術者への道

中学生の頃からものづくりに興味があり、電気関係の技術者になりたいと思っていました。高校では工業を学び、実験で電気回路を作る楽しさを感じて、メーカーで働くことに憧れを抱きました。その頃はまだ電力にあまり興味はありませんでしたね。

今しかできないことを!
経験が何よりの自分の糧となる

「百聞は一見に如かず」ということわざがありますが、経験したことは、必ず自分の糧になります。大学では研究に力を入れながらも、「今しかできないことをやる」という思いの下、学生生活を送っていました。特に旅行が大好きで、多くの人との出会いを楽しみに旅に出ています。また、インターンシップや学会発表に積極的に参加したりと、さまざまなことを人よりも多く経験しましたね。

水力発電の普及で地域貢献を
やりがいを感じる日々

九州電力株式会社入社4年目に、九州最大の揚水発電所・小丸川発電所の建設業務に携わり、仕事のやりがいを感じるようになりました。現在は水力発電所の統括業務を行っています。九州の皆さまへ電力の安定供給という当社の社会的使命が果たせるように、これからも何事にも挑戦する気持ちを忘れずがんばっていきます。

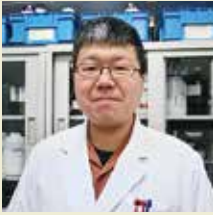
卒業生 ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る
「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する
先輩たちのこれまでの歩みや苦労、
そして喜び、楽しみなどを通して
精励するその姿をご紹介します。

薬

一日も早い病気の解明に向けて オリジナリティーある研究を追求



斉藤 貴志

Takashi SAITO

独立行政法人理化学研究所
脳科学総合研究センター
(埼玉) 勤務

薬学部薬科学科・平成6年度卒／大
学院薬学研究所博士前期課程・平
成8年度修了

昭和48年生まれ、福岡県糟屋郡宇
美町出身。熊本県立宇土高校卒業。
熊大修了後、大阪大学医学系研究
科にて学位(医学博士)を取得。山登
りなど自然に浸ってられる時間が
最も至福。

熊大のココがイイ!

熊大のある熊本は、
海・山・川あり、人もあり!
自然が身近な環境で、
大切な人に会える。

祖母の病気をきっかけに
薬学の道を目指す

高校までは漠然と祖父の仕事を継いで、
建築家や設計士になるのだと思っていま
したが、目指しているわけではありません
でした。そんな折、祖母の病気をきっかけに薬を
創る仕事がしたいと思うようになり、熊大薬
学部を目指し勉強に励むようになりました。

必死に授業をこなす2年間を乗り越えて
学ぶことの楽しさを実感

1・2年の頃は、大学の授業の難しさに翻
弄されながら悪戦苦闘の日々を送る劣等生
だったかも知れませんが、3年から始
まった本格的な学生実習漬けの中で、それ
までの授業で習ってきたことがつながりは
じめ、初めて「授業や実習が楽しい」と感じ
るようになりました。遠歩大会は、仲間のあ
りがたみや「自分」を知る貴重な体験でした。

治療法の解明に向けて
広く社会に貢献できる研究を

現在は独立行政法人理化学研究所で、
アルツハイマー病の研究に携わっています。
熊大の恩師に研究の楽しさ、厳しさ、理想
の道を示してもらえたことが礎となり、大き
く社会に貢献できる研究をしたいと思うよ
うになりました。今後は、他の難治性疾患
の研究にも携わり、誰かの役に立つような
オリジナリティーのある研究を追求したい
です。

法

法学部での学びを武器に 金融のプロを目指す



鮫島 光一郎

Koichiro SAMESHIMA

財務省九州財務局(熊本)
勤務

法学部法学科・平成23年度卒

平成元年生まれ、熊本県熊本市出
身。熊本学園大学付属高校卒業後、
熊本大学法学部へ進学。現在は、熊
本の財務省九州財務局で業務にあ
たる。

熊大のココがイイ!

自然に恵まれた
キャンパスで、
四季を感じながら
毎日を過ごすことが
できます。

悩み苦しんだ中で見つけた
揺るぎない自分の道

ロースクールへの進学か、民間企業への
就職か、進路選択に悩みに悩む日々。決め手
となったのは「自分自身が納得して取り組め
る仕事をしたい」という気持ち。本気で悩み、
自分で決めた道だからこそ進路選択は間違
ってなかったと、自信を持って言うことが
できます。

遊びも、学びも一生懸命に
悔いなく過ごした学生生活

大学3年で、公務員試験の勉強に打ち込み、
内定を頂いてからは、国内外へ5回も卒業旅
行へ。あつという間の4年間でしたが、友人と
飲み明かしたことやアルバイトに励んだこと、
試験前友人と徹夜で勉強したこと等、何気な
い大学生活のどれもが思い出です。友人
や先生方に恵まれた大学生活でした。

大切なのは、柔軟な発想と
コミュニケーション力

現在、証券会社や金融機関等の監督業務
を行っています。「金融商品取引法」に従って
業務を行い、証券六法を使わない日はありま
せん。日々、法学部で学んだ知識が生かされ
ています。金融のプロを相手にすることも多
く、専門的な知識に加え、柔軟な発想やコ
ミュニケーション能力が要求されます。自分
の未熟さを痛感することもあります。努力
しながら前向きに業務に取り組んでいます。

理

後輩の明るい未来に寄与したい サイト開発に奮闘する日々



豊島 正大

Masahiro TOYOSHIMA

新日鉄住金ソリューションズ
株式会社(東京) 勤務

理学部地球科学科・平成17年度卒
／大学院自然科学研究科理学専攻
博士前期課程・平成19年度修了

昭和58年、長崎県佐世保市出身。長
崎県立佐世保南高校卒業後、熊本
大学を経て同大学院へ。趣味は音楽
鑑賞とスポーツ観戦。平成25年2月
に第1子が誕生し、絶賛イクメン中。

熊大のココがイイ!

市街地に近く、自然にも
囲まれた素晴らしい環境。
生活も研究も充実します!

知りたい!を追求

誰も解明できない謎への挑戦

高校2年で進路を考えた際、幼少時から
興味を持っていた化石、火山、宇宙など、自
分想知道いことを知ることができる道へ
進もうと決めました。地球科学というロマ
ン溢れる分野で、まだ誰も知らない謎を解
明できるような研究ができればと考えてい
ました。

サークル活動に、研究にと大忙し

熊大だからこそこの体験が思い出

学部2年までは、バレーボールサークルで
試合や飲み会、旅行など充実した日々を過
ごしました。3年からは、学科の仲間と研究
に精を出す日々。「月の磁場」を専門に扱い、
国内外で研究発表を行ったり、JAXAの施
設を見学したことは良い経験となりました。
研究成果が未だ誰も見ぬ月全球磁場マップ
として形になった瞬間は、鳥肌が立ちました。

就職支援サイトの開発に携わり

学生×企業の出会いをサポート

現在は、新卒者向け就職支援サイトの開
発に携わっています。多くの学生が自分
に合った企業と巡り合えるように、「情報を集
め、分析・企画を行い、サイトを作り、就職
を実現する」というプロセスの中で日々業務
に励んでいます。今や就職支援サイトは社
会インフラと言っても過言ではないため、非
常にやりがいのある仕事です。熊大生の将
来の手助けができるようがんばります!

医

生命誕生の神秘と向き合う中で 女性の味方でありたいと願う



小寺 千聡

Chisato KODERA

熊本大学医学部附属病院
産科・婦人科 勤務

医学部医学科・平成22年度卒

昭和61年生まれ、熊本県熊本市出
身。熊本県立熊本高校卒業。趣味は
食べることに、旅行すること。特技は
ピアノと、どこでも眠れること。

熊大のココがイイ!

尊敬できる先輩方と、
一生の仲間に出会える
場所だと思います。

幼い頃からの憧れだった医師が

生涯をかけてもいいと思える仕事に

物心ついた頃からずっと、白衣に身を包ん
だ優しく頼もしい医師は憧れの存在でした。
苦しんでいる人の役に立つ仕事がしたい、と
漠然と考えていた高校生の時、祖父の死に直
面し、医師になることを決意。生涯をかけても
いいと思える仕事は他にはないと思えました。

初めて見たお産に感動し

涙が止まらなかった臨床実習

趣味の旅行や部活、ボランティア活動など、
やりたいことはなんでもやった学生生活でし
た。両親の反対を押し切り、リュックサック一
つで1か月間外国を放浪したこともあります。
けれど、最も心に残っているのは病院での臨
床実習で初めてお産を見たこと。生命誕生の
神秘と母の強さを感じ、感動で
涙が止まりませんでした。

日々命の尊さを感じながら

いつでも女性の味方でありたいと願う

産婦人科医として働いている今、一つの命
が誕生する一方で別の命が終わりを迎える
場所にいる、日々命の尊さを感じています。命
を宿し得る子宮を摘出するという辛い選択を
しなければならないこともあり、だからこそ
全ての女性が自分の体を大事にして欲しい
と思います。産婦人科医として、いつでも気
軽に相談できる、女性の強い味方でありたい
です。

REPORT 熊本駅周辺地区が「都市景観大賞」受賞

5月27日(月)、良質で優れた都市景観に贈る平成25年度「都市景観大賞」(主催「都市景観の日」実行委員会)の「都市空間部門」で、熊本駅周辺地区が最高賞である「大賞(国土交通大臣賞)」に選ばれ、熊本県・熊本市・「熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議」3者の連名で受賞しました。

同デザイン会議は、同地域における良好な都市空間の形成を図るとともに事業主体間の調整によるデザインの統一性や一貫性を図るシステムを構築するために組織されており、本学からは、両角光男本学理事・副学

長、小林一郎教授、田中智之准教授、星野裕司准教授(共に自然科学研究科)が、学識経験者として参画しています。

同デザイン会議が各事業者と市民をつなぎ、きめ細かな調整の役割を果たしたことで「各空間のデザインレベルは大変高いものとなり、他都市にない特徴的都市空間が形成されている」と審査委員会で評価されました。

6月14日(金)には、東京都内で開かれる「まちづくりと景観を考える全国大会」で、表彰式が行われました。



駅周辺の各エリアに展開された「出会いの景」「木立の景」「水辺の景」という三つの都市デザインは、“人” “緑” “水”を表している

REPORT 「日中国際政策フォーラム」を開催

5月13日(月)、「ありのままの中国を知ろう!」と銘打ち、政策創造研究教育センターの主催による「日中国際政策フォーラム」を開催しました。

中国の上海交通大学、復旦大学、上海大学などの気鋭の研究者と熊本大学の研究者が参加し、「ホテル日航熊本」の会場に詰めかけた多数の来場者を前に、市民参加やコミュニティー、文化・経済・メディア等について活発な意見交換を行いました。

両国の研究者が参加したことにより、今のありのままの中国の姿を知り、未来志向の連携を探る有意義な機会となりました。



(上)復旦大学・劉春榮准教授(写真左)と中国コミュニティーについて語り合う政策創造研究教育センター・田中尚人准教授
(下)同時通訳を介して中国の研究者の発表に聞き入る来場者

REPORT 「神野大光展 一書と篆刻の世界」を開催

「熊本市現代美術館」の依頼に応え、5月11日(土)から7月6日(土)まで、本学教育学部・神野雄二(号:大光)教授の書と篆刻の個展を同館にて開催。長年にわたる書道の研鑽の集大成として書と篆刻、刻書の作品50点が展示されました。

「人間讃歌」をテーマに、平和への思いを筆に託した作品の数々は、書芸術の新たな可能性に挑戦したもので、古典による伝統的な作品とともに、独創的な「歴史数字書」「不定形篆刻」などを出品。期間中、アーティストトークとワークショップ「篆刻を楽しむ」が行われ、盛況を博しま

した。また書道部の学生たちも参加し、会場を大いに盛り上げました。



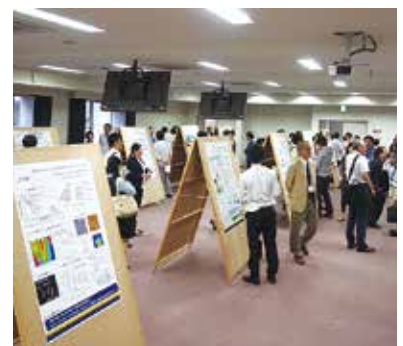
作品の前に立つ神野教授

REPORT 第1回「医工連携フォーラム」を開催

5月29日(水)本学医学部にて第1回「医工連携フォーラム」を開催。170名を越える参加者が集いました。

医・工連携と先端医療・医学研究における材料技術の重要性をテーマに、京都大学再生医科学研究所・田畑泰彦教授が基調講演。その後、本学の医・工連携活性化を目指し、地場企業代表であるオオクマ電子(株)・大隈恵治氏、自然科学研究科・村山伸樹教授、生命科学研究部薬学系・甲斐広文教授、同医学系・水田博志教授らが事例紹介、および各領域におけるニーズやシーズについて40件を超えるポスター討論や情報交換を行いました。

(右)基調講演を行う京都大学再生医科学研究所・田畑教授(下)ポスターディスカッションの様子



INFO 「月例薬用植物園薬用植物観察会」と
「野外薬用植物観察会」のお知らせ

【第111回月例薬用植物園薬用植物観察会】
薬用植物園の季節の花々や薬用植物を取り上げて紹介。雨天の場合は屋内で説明します。

日 時／8月3日(土)11:00～13:00
場 所／薬学部薬用植物園
(管理棟前集合)
対象／一般・学生(幼稚園以上可)
参加費／100円
事前申込／なし

【申込・問い合わせ】
薬用資源エコフロンティアセンター Tel.096-371-4381(矢原)
E-mail:yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp
URL:<http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/flower/index.html>

【野外薬用植物観察会】
身近な立田山の薬用植物をピクニック気分で見学してみませんか。弁当・飲み物・帽子等持参。小雨決行。

日 時／9月29日(日)9:30～15:30
(9:15赤門前集合)
場 所／立田山
対 象／一般・学生(小学生以上可)
参加費／100円
事前申込／メールまたは電話でお申し込みください。

INFO 平成25年度「高校生のための
熊大ワクワク連続講義」
夏季プログラム受講生募集!

第一線で活躍する本学教員たちが、自らの研究に抱く夢や研究と高校の学習との関連などについて、高校生たちに熱く優しく語り掛けます。

日 時／8月6日(火)～9日(金)
(開講時間／10:20～16:20)
場 所／本学全学教育棟
対 象／高校生および高校教員
参加費／無料

事前申込／所定の申込様式(本学ホームページからダウンロード可)へ学校ごとに参加希望者を取りまとめて、高大連携推進室宛て、メールでお申し込みください。

【問い合わせ】
高大連携推進室
Tel.096-342-2142
E-mail:gag-koda@jimu.kumamoto-u.ac.jp
URL:<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/koudairenkei/project/index>



平成24年度に開講された講義の様子

INFO 集まれ!第11回「中学生を対象とした
夏休みの自由研究に関する技術相談会」

中学生が考えた研究テーマについて、本学教職員が相談員となって、工学部内の実験施設・設備を利用して自由研究のアドバイスをを行います。

日 時／7月28日(日)9:00～17:00
場 所／工学部百周年記念館
対 象／熊本県内の中学生
参加費／無料
事前申込／7月12日(金)17:00までに、次の項目を記入の上、郵送またはFax、メールにてお申し込みください。(ホームページからも申し込み可能)

- ①電話番号②住所
- ③氏名④学校名
- ⑤学年⑥希望の時間帯⑦研究テーマ
- ⑧相談したい内容



【申込・問い合わせ】
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1
熊本大学自然科学系事務ユニット総務担当(井上)
Tel.096-342-3781(倉田)
Fax.096-342-3510
E-mail:soudan13@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp
URL:<http://www.tech.eng.kumamoto-u.ac.jp/soudankai/index.html>

INFO 平成25年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へKAKENHI～」
(研究成果の社会還元・普及事業)に熊本大学のプログラムが採択されました。

(独)日本学術振興会が公募するこの事業は、研究機関で行っている最先端の科研費の研究成果について、中・高校生を対象に、直に“見る・聞く・触れる”ことで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。参加費無料。



目が見えない子どもたちのために「おしゃべり点字教具」を作ろう!

【「超臨界流体」と「パルスパワー」を利用する最先端ものづくり実験】
日 時／8月1日(木)・2日(金)・8日(木)・9日(金)
場 所／工学部物質生命科学科会議室および化学工学研究室
対象・定員／高校生・各回10名
事前申込／7月12日(金)締切

【問い合わせ】
工学部物質生命化学科 佐々木
Tel.096-342-3666
Fax.096-342-3665
E-mail:masasaki@kumamoto-u.ac.jp

【「おしゃべり点字教具」で本格電子工作!～届けよう、目が見えない全国の子どもたちへ～】
日 時／8月7日(水)～9日(金)
場 所／工学部革新ものづくり教育センター(8:30～8:50工学部百周年記念館集合)
対象・定員／高校生20名
事前申込／7月19日(金)締切

【問い合わせ】
工学部技術部 須恵
Tel・Fax.096-342-3696
E-mail:hiratoki@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp

INFO 「文部科学省 情報ひろば」で本学の「創薬研究」を展示



旧文部省庁舎(登録有形文化財)を活用したミュージアム・情報発信スペース「文部科学省情報ひろば」にて、下記のとおり薬学部の研究成果に関する展示を行います。また、8月7日(水)・8日(木)に同会場で開催される「子ども霞が関見学デー」では、子ども向けの催しも予定しています。

テーマ／薬を創り、薬を育て、生命(いのち)をまもる—熊本大学の「創薬研究」
 日時／8月1日(木)～11月下旬
 月～金曜10:00～18:00
 (入館は17:30まで、土・日曜、祝日休館)
 場所／文部科学省情報ひろば3F展示室(東京都千代田区霞が関3-2-2 旧文部科学省)

【問い合わせ】
 マーケティング推進部広報戦略ユニット
 Tel.096-342-3119
 URL:<http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/sp/index.htm>

INFO 第13回「レトロコンサート～私たちは忘れない～」を催します

高齢者の文化発信と地域交流、そして九州北部豪雨災害を風化させないことを目指して、学生たちが企画。音楽と笑いで地域に元気発信!

日時／7月6日(土)14:00
 場所／熊本県立劇場大会議室B1F
 対象／地域在住の高齢者・一般
 参加費／無料
 事前申込／なし

【問い合わせ】
 文学部総合人間学科
 Tel.090-2501-4813
 (木村)



INFO 平成25年度「中学校及び高等学校における遺伝子教育研修会」【PCRコース】を開催します

遺伝子の基礎知識から先端研究までの講義およびDNAを増幅するPCR法(polymerase chain reaction)を中心とする実習を通して、教育現場での遺伝子教育のあり方を議論します。

日時／8月13日(火)～14日(水)
 10:00～17:00
 場所／生命資源研究・支援センター 遺伝子実験施設6F講義室(601)
 対象／中・高校現職理科教員およびその関係者

参加費／無料
 事前申込／受講申込書に必要事項を記入し、郵送またはFax・メールにてお

申し込みください。締切後、受講決定通知書を交付します。7月19日(金)締切。

【申込・問い合わせ】
 〒860-0811 熊本市中央区本荘2-2-1
 熊本大学生命資源研究・支援センター遺伝子実験施設
 Tel.096-373-6501
 Fax.096-373-6502
 E-mail: www@gtc.gtca.kumamoto-u.ac.jp
 URL:[http://gtc.egtc.jp/view/kouken/rik/a25\(予定\)](http://gtc.egtc.jp/view/kouken/rik/a25(予定))



INFO 女子中・高校生の理系進路選択支援プログラム「めざせ、理系キャリア!夢創り応援プロジェクト for ガールズ」へ行こう!

女子中・高校生に理系の学問を身近なものとして興味を持ってもらい、理系を視野に入れたキャリアビジョンを抱き、「サイエンティストを目指す夢創り」を応援することを目的とした企画です。7月から11月まで、充実したプログラムを実施します。

- ①聞いてみんね、みつけんね!理系のロールモデル
7月20日(土)10:00～15:30
- ②フレー!フレー!未来のエンジニア
7月28日(日)9:00～17:00
- ③来てみなっせ!乙女サイエンス・スクールin天草
8月2日(金)～4日(日)

- ④女子高校生のための進路相談会
8月10日(土)11:00～15:00
- ⑤輝く理系女子キャリアパス
9月16日(月)13:30～16:00
- ⑥理系女子プロフェッショナルへの挑戦
11月10日(日)13:30～16:00

プログラムの開催場所など、詳しい内容は以下のURLよりご確認ください。
 URL:<http://rikai.jst.go.jp/jyoshi/saitaku/fiscal/13/kikan12.html>

【問い合わせ】
 生命科学研究部保健学系事務室総務担当
 Tel.096-373-5452(月～金曜 9:00～17:00)



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.21 (平成25年3月1日～平成25年5月31日)

卒業生の皆さま、在学生の保護者の皆さま、法人・団体等の皆さま、本学の退職者及び教職員の皆さまからご寄附をいただき、平成25年5月31日現在、その寄附総額は約5億3833万円となっております。皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成25年3月1日から平成25年5月31日までの間に入金を確認させていただきました個人181名、9法人・団体等の寄附者すべての皆さまへ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆さまの更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ ()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【360万円】	甲斐原 守夫(1080)					
【100万円】	一般財団法人 化学及血清療法研究所(11600)					
【50万円】	杏龍会(50)					
【30万円】	浄住 護雄(40)					
【10万円】	菊池 健(90)	長谷 義隆(35)	長谷 義隆(40)			
【5万円】	清水 忠雄(5)	中川 義朗(5)				
【5万円未満】	荒木 幹生	井上 赳	川岡 澄夫	新宮 信二	中園 徹哉	
	永野 睦弘	松田 亨	村上 健太郎(6)	山城 重雄		

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ []内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

浅山 滉[5]	安達 慶志	荒木 昌典[3]	生野 浩正[2]	今中 啓喜	上田 京二[5]	上村 順一[3]
衛藤 光明[6]	大久保 安博	大城 良治	大竹 伸幸	太田原 幸人	岡崎 美知治[3]	柿原 憲二
梶 修一郎[2]	片淵 秀隆[3]	河野 一郎	河野 通文	清元 晃	草野 龍二[7]	久保田 敏昭
高口 浩幸	佐伯 千恵子[4]	坂田 満生[7]	相良 勝郎[4]	笹栗 正明	佐藤 千栄子[2]	塩見 祐一[2]
七里 正昭	紫藤 忠博[2]	島 利典	角 昌俊	瀬戸口 慎	高宗 俊雄[2]	田川 聖也
田中 敬基[2]	谷 宏[2]	谷富 一昭[2]	角田 勝則	徳尾 芳道	徳田 元	富安 俊一郎
中島 誠	中原 和彦[2]	西島 喜義	仁禮 尚道[2]	野村 耕一[4]	馬場 洋介[2]	平田 耕也[2]
平田 友孝[3]	福田 精一	福永 啓二郎	藤崎 順子[6]	外園 不二夫	堀野 敬[2]	本田 博志
蒔田 正	松尾 敏之[4]	三澤 公子[2]	見田 綏夫	宮家 隆次[3]	宮崎 正万[2]	山下 茂
山本 英彦	吉田 実	吉村 龍太				
医療法人秋津会	徳田脳神経外科病院	株式会社ニュースカイホテル[4]				

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人98名、5法人・団体等

REPORT

「第5回熊本大学東京連合同窓会」に190名が参加

平成25年5月25日(土)東京都新宿区の日本青年館において、関東地区在住の同窓生及び、谷口学長をはじめ大学関係者など総数190名が参加し、第5回熊本大学東京連合同窓会が開催されました。

同窓会では最初に総会・講演会が行われ、中野栄二東京連合同窓会会長(S42薬)、岡村宏同窓会連合会会長(S29工)から挨拶があり、続いて卒業後様々な分野で顕著な活躍があったとして昨年度熊本大学から表彰を受けた26名の同窓生の紹介がありました。続

く講演会では、谷口学長より「熊本大学の新たな飛躍に向けて＝国立大学を取り巻く状況とその将来＝」と題し、また山西嘉晴財団法人東京都医学総合研究所客員研究員(元エーザイ株式会社)より、「アルツハイマー型認知症治療薬の研究開発ー現在から未来に向かってー」と題して講演が行われました。

講演会終了後の交流会では、江口工東京連合同窓会顧問(S28工)、西山多加志関西連合同窓会会長(S44工)の挨拶の後、今村遼平東京連合同窓会副会長(S38理)の発声で乾杯が行われ、

同窓生は出身学部・世代を超えた交流を図り、愉快なひとときを過ごしました。

また会の途中には、大江田浩隆銀座熊本館主事(H14法)から熊本県のPRが行われたほか、最後には現役学生で体育会応援団第41代団長の西本徹さん(理2年)から『五高寮歌』と巻頭言が放歌され、参加者は全員で肩を組んで合唱し、大盛況のうちに閉会となりました。

詳細は下記URLよりご覧ください。

URL:<http://www.kumamoto-u.ac.jp/sotsugyousei/dousoukai>

未来の君を、待っている。

熊本大学オープンキャンパス

当日自由参加OK!

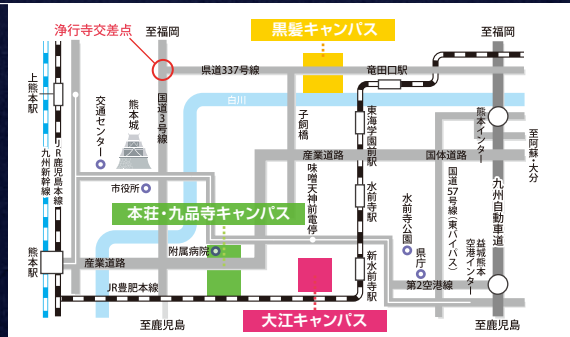
2013年8月7日 WED

■ 本荘・九品寺キャンパス……………医学部(医学科・保健学科)

2013年8月10日 SAT

■ 黒髪キャンパス……………文学部・教育学部・法学部・理学部・工学部

■ 大江キャンパス……………薬学部



国立大学法人
熊本大学

熊本大学学生支援部入試ユニット
TEL.096-342-2146 FAX.096-345-1954
E-mail nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

